

1	(1) $\frac{7}{10}$	(2) $1\frac{5}{12}$	(3) $9\frac{3}{8}$
---	--------------------	---------------------	--------------------

2	(1) 152 (人)	(2) 4600 (円)	(3) (毎分) 78 (m)	(4) 600
	(5) 14.86 (cm ³)	(6) 1 : 9	(7) 180 (cm ³) ア	(7) 180 (cm ²) イ

3	(1) 200	(2) 500050
---	---------	------------

4	(1) 235200 円	(2) 320 個
---	--------------	-----------

5	(1) $1\frac{1}{4}$ cm	(2) 5 : 9	(3) $6\frac{3}{7}$ cm ²
---	-----------------------	-----------	------------------------------------

6	(1) 2.2 秒後	(2) 21.4 秒後	(3) 100 回
---	------------	-------------	-----------

7	(1) 40 cm ³	(2) $2\frac{38}{45}$ cm ³
---	------------------------	--------------------------------------

(配点)

2 ; 各 5 点 × 8

他 ; 各 4 点 × 15

1 (3) $(\square + 3) : (\square \times 2 - 5) = 9 : 10$
 $(\square + 3) \times 10 = (\square \times 2 - 5) \times 9 \rightarrow \square \times 10 + 30 = \square \times 18 - 45$
 $\square \times 8 = 75 \quad \square = 75 \div 8 = 9 \frac{3}{8}$

2 (1) 男 $\times 1 \frac{5}{9} =$ 女 $\times 1 \frac{3}{4} \rightarrow$ 男 : 女 $= \frac{9}{14} : \frac{4}{7} = 9 : 8$
 これより、全校生徒の人数は、 $9 + 8 = 17$ の倍数になる。
 全校生徒は、 $35 \times 9 = 315$ (人)以上、 $37 \times 9 = 333$ (人)以下。
 この範囲で17の倍数になるのは、 $315 \div 17 = 18$ 余り9 $333 \div 17 = 19$ 余り10
 より、 $17 \times 19 = 323$ (人)のみとなる。
 よって、女子生徒の人数は、 $323 \times \frac{8}{9+8} = 152$ (人)

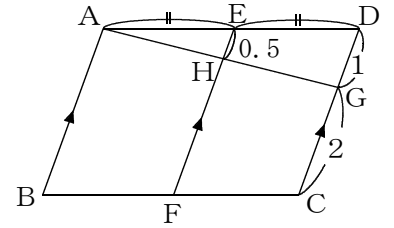
(2) Bさんの金額を①円とすると、 $A = ① \times 3 + 1000 = ③ + 1000$ (円)
 また、もう一つの条件より、 $① = (③ + 1000) \div 2 - 1100 = ①.5 - 600$
 これより、 $①.5 - ① = ①.5 = 600$ (円) $① = 600 \div 0.5 = 1200$ (円)
 よって、Aさんの持っている金額は、 $1200 \times 3 + 1000 = 4600$ (円)

(3) Aさんが、 $15 + 24 = 39$ (分)で進むきよりを、Bさんは24分で進む。
 これより、速さの比は、 $A : B = 24 : 39 = 8 : 13$
 よって、Bの速さは、 $48 \times \frac{13}{8} = 78$ (m/分)

(4) 異なる2つの整数をA, Bとする。 $24 \overline{) \begin{array}{r} A \\ B \end{array}}$
 ア イ
 上のまとめ方において、AとBのLCMは、 $24 \times \text{ア} \times \text{イ} = 3456$
 これより、 $\text{ア} \times \text{イ} = 3456 \div 24 = 144$ となる。
 アとイの組み合わせは、 $\text{ア} < \text{イ}$ とすると、
 $(\text{ア}, \text{イ}) = (1, 144) (2, 72) (3, 48) (4, 36) (6, 24) (8, 18) (9, 16)$
 となるが、GCMが24であることより、アとイは互いに素。
 これより、 $(\text{ア}, \text{イ}) = (1, 144) (9, 16)$ となるが、和が最小になるのは、
 $(\text{ア}, \text{イ}) = (9, 16)$ のとき。
 よって、和は、 $24 \times (9 + 16) = 600$

(5) ひし形ABCDの面積は、 $6 \times 6 \div 4 \times 2 = 18$ (cm^2)
 おうぎ形の中心角の合計は、ひし形の内角の合計と同じなので360度。
 よって、斜線部分の面積は、 $18 - 1 \times 1 \times \pi = 14.86$ (cm^2)

(6) E, Fが辺のまん中の点であることより、
 直線EFと辺DCは平行。
 これより、三角形AHEと三角形AGDは相似。
 相似比 三角形AHE : 三角形AGD = 1 : 2
 $DG = 1$ とすると、 $EH = 1 \times \frac{1}{2} = 0.5$



三角形AHEと四角形HFCGは高さが等しいので、面積の比は、上底と下底の比となるので、 $(0 + 0.5) : (3 - 0.5 + 2) = 1 : 9$

(7) ア(体積) $\dots 6 \times 6 \times 6 - 3 \times 3 \div 2 \times 6 \times \frac{1}{3} \times 4 = 180$ (cm^3)
 イ(表面積) $\dots 6 \times 6 + 6 \times 6 \div 2 + 6 \times 6 \div 2 \times 4 + 6 \times 6 \times \frac{3}{8} \times 4 = 180$ (cm^2)

3 (1) □段目の右端の数は、1から□までの整数の和(三角数)となっている。
 19段目の右端の数は、 $(1 + 19) \times 19 \div 2 = 190$
 よって、20段目の左から10番目の数は、 $190 + 10 = 200$

(2) 99段目の右端の数は、 $(1 + 99) \times 99 \div 2 = 4950$
 100段目の右端の数は、 $(1 + 100) \times 100 \div 2 = 5050$
 よって、100段目の数の和は、 $(4951 + 5050) \times 100 \div 2 = 500050$

4 (1) $1200 \times (1 + 0.5) = 1800$ (円) \dots 定価
 $1800 \times (1 - 0.2) = 1440$ (円) \dots 定価の2割引き
 $(1800 - 1200) \times 500 = 300000$ (円) \dots 予定の利益
 よって、実際の利益は、 $300000 \times 0.784 = 235200$ (円)

(2) 1個あたりの利益で考える。
 定価 $\dots 1800 - 1200 = 600$ (円)
 売価 $\dots 1440 - 1200 = 240$ (円) $\left. \begin{array}{l} \text{500個} \rightarrow 235200 \text{円} \end{array} \right\}$ というつるかめ算。
 よって、定価で売れた個数は、 $(235200 - 240 \times 500) \div (600 - 240) = 320$ (個)

5

(1) $FJ = 1 + (2 - 1) \times \frac{1}{1 + 3} = 1\frac{1}{4}$ (cm)

(2) Hから辺BCに平行な直線を引き、直線EGと交わる点をKとする。

$KH = 2 + (3 - 2) \times \frac{1}{3 + 1} = 2\frac{1}{4}$ (cm)

三角形FIJと三角形HIKは相似。

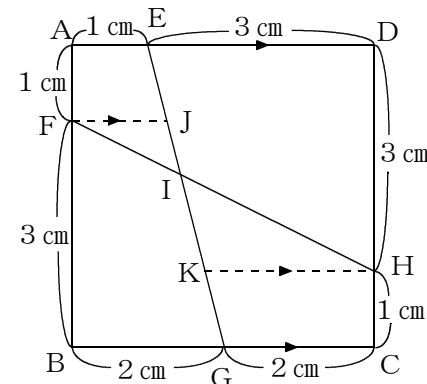
相似比 $1\frac{1}{4} : 2\frac{1}{4} = 5 : 9$

よって、 $FI : IH = 5 : 9$

(3) 三角形IKHの、底辺をKHとしたときの高さは、 $(3 - 1) \times \frac{9}{5 + 9} = 1\frac{2}{7}$ (cm)

四角形EIRDの面積は、台形EKHDの面積から三角形IKHの面積を引く。

よって、 $(3 + 2\frac{1}{4}) \times 3 \div 2 - 2\frac{1}{4} \times 1\frac{2}{7} \div 2 = 6\frac{3}{7}$ (cm²)



6

(1) 円1個のまわりの長さは、

$3 \times 2 \times \pi = 6 \times \pi$ (cm)

アの速さは、 $9.42 = 3 \times \pi$ (cm/秒)

イの速さは、 $6.28 = 2 \times \pi$ (cm/秒)

アがVにはじめて戻ってくるのは、 $6 \times \pi \times 2 \div (3 \times \pi) = 4$ (秒後)

イがWにはじめて戻ってくるのは、 $6 \times \pi \times 2 \div (2 \times \pi) = 6$ (秒後)

$LCM(4, 6) = 12$ (秒)までを1セットとして考える。

三角形PQRが正三角形なので、 $\angle SQT = \angle UPS = \angle TRU = 60^\circ$

アとイが重なる可能性があるのは、円A上か点T。

点Tに着くのは、ア... $4 \div 2 \times \frac{1}{3} = \frac{2}{3}$ (秒後)のあと4秒後ごと、

イ... $6 \div 2 \times \frac{1}{3} = 1$ (秒後)のあと6秒ごとなので、重なることはない。

これより、円A上での重なりのみを考えればよいので、円A上のダイヤグラムをかいて考える。

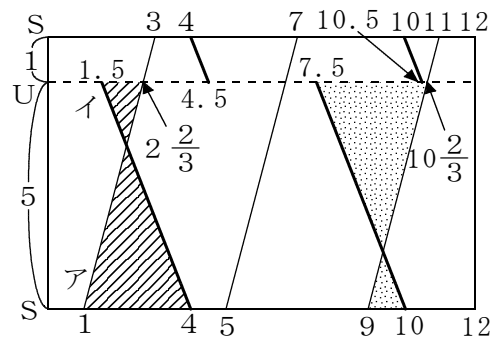
アがはじめてUにくるのは、出発してから、 $1 + (3 - 1) \times \frac{5}{6} = 2\frac{2}{3}$ (秒後)

斜線部分の相似を考えると、相似比 $(2\frac{2}{3} - 1.5) : (4 - 1) = 7 : 18$

よって、はじめて重なるのは、 $1.5 + (4 - 1.5) \times \frac{7}{7 + 18} = 2.2$ (秒後)

(別解) 1回目の重なりは、円B180度分、円C180度分、円A300度分の出会いと考えられるので、 $6 \times \pi \times \frac{180 \times 2 + 300}{360} \div (3 \times \pi + 2 \times \pi) = 2.2$ (秒後)

としてもよい。



(2) 網目部分の相似を考える。

アが3回目にUにくるのは、出発してから、 $2\frac{2}{3} + 4 \times 2 = 10\frac{2}{3}$ (秒後)
相似比 $(10\frac{2}{3} - 7.5) : (10 - 9) = 19 : 6$

これより2回目の重なりは、 $7.5 + (10 - 7.5) \times \frac{19}{19 + 6} = 9.4$ (秒後)

1セットで2回重なるので、4回目の重なりは2セット目の2回目。

よって、 $12 + 9.4 = 21.4$ (秒後)

(3) 1セットで2回重なるので、10分間では、 $60 \times 10 \div 12 \times 2 = 100$ (回)重なる。

7

(1) 右の図1のようになり、共通部分は太線部分の四角すい2個分となる。

四角すいO-HIKLの体積は、

$72 \times \frac{2}{3} \times 10 \times \frac{1}{3} = 160$ (cm³)

相似比 $1 : 2 \rightarrow$ 体積比 $1 : 8$ より、

求める体積は、 $160 \times \frac{1}{8} \times 2 = 40$ (cm³)

(2) 下の図2の太線部分の四角すいとなる。この立体を長方形CIKEが正面になるように見ると、図3のようになる。

ERとKIを延長したときの交点をSとし、相似を利用すると、 $OU : UI = 1 : 2$ 、 $OT : TK = 1 : 4$ となる。

四角すいO-HIKLを面OILで切り、2つの三角すいに分けて考えると、

求める体積は、 $160 \times \frac{1}{2} \times \frac{1}{3} \times \frac{1}{3} \times \frac{1}{5} + 160 \times \frac{1}{2} \times \frac{1}{3} \times \frac{1}{5} \times \frac{1}{5} = 2\frac{38}{45}$ (cm³)

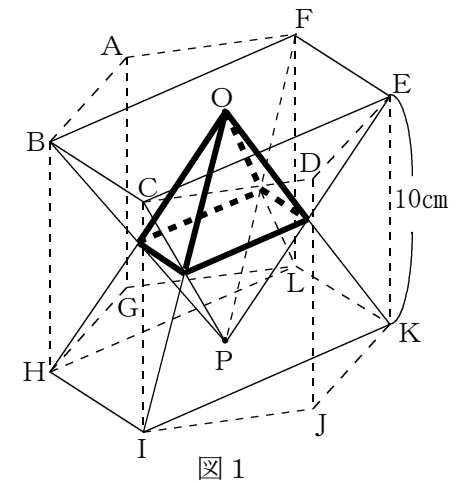


図1

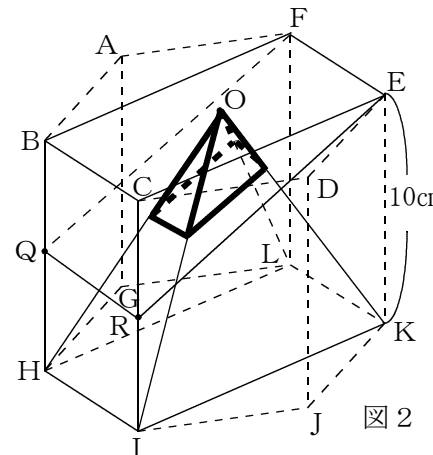


図2

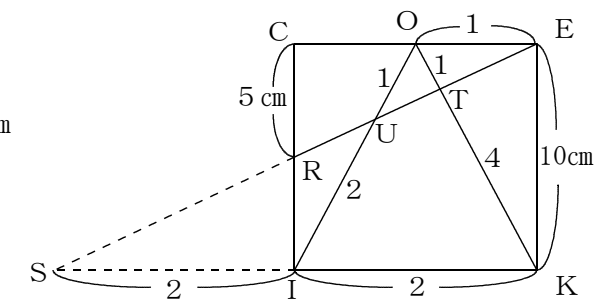


図3

(配点) ②; 各5点×8 他; 各4点×15